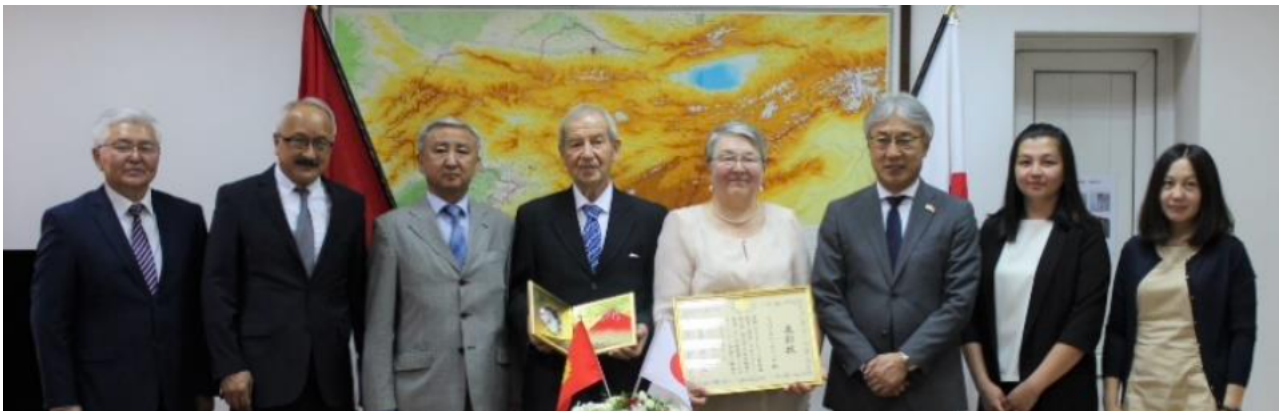




外務大臣表彰受賞！ガリーナ・ヴォロビヨワ先生 2021 年 6 月 23 日 在キルギス日本国大使館において授与式

23 июня 2021 года в здании Посольства Японии в КР состоялась Церемония вручения Почётной Грамоты Министра иностранных дел Японии г-же Галине Воробьёвой.



ガリーナ先生と御夫君ヴィクトル先生を中央に

左から：ピシケク国立大マシュラポフΦBMO学部長・ピシケク国立大ムサエフ学長・シャディハノフキルギス教育科学副大臣
右から：ピシケク国立大ジュヌシャリエワ日本語学科長・教師会イシライロワ会長・前田日本国特命全権大使

◆6月23日、在キルギス日本国大使館においてキルギス共和国日本語教師会創立者の一人であり、キルギス共和国国民として初めて日本語研究分野における博士号を取得し、現時点でキルギス唯一の日本語教育研究博士であるガリーナ・ヴォロビヨワ先生に対する外務大臣表彰授与式が執り行われ、前田茂樹駐キルギス特命全権大使により表彰状と記念品が授与されました。

◆感染対策のため規模は小さくなりましたが、授与式にはシャディハノフキルギス共和国教育科学副大臣、ピシケク国立大学ムサエフ学長、キルギス共和国日本語教師会イシライロワ会長が祝辞を述べました。ガリーナ先生は、受賞の挨拶で日本国、家族、研究を支えてくれた方々に感謝するとともに、多くのサポートを得て、キルギス日本語教育を一層

発展させていく必要があるとスピーチしました。

◆キルギス共和国日本語教師会イシライロワ会長は、ガリーナ先生の研究活動とその成果は、キルギスはもちろん世界の日本語研究にとっても大きな意義があり、自分たち経験の浅いキルギスの日本語教師は今後とも先生を目標に研鑽に努めていきたいと思っていること、また、先生の長年の活動のおかげで、キルギスの日本語教師たちの活動を世界中の人々に知ってもらうことができたこと、など、改めて先生に大きな感謝を伝えました。

◆式典の最後、当日出席できなかったキルギス・ロシア・スラブ大学のヤネズ・ミヘリチチ先生とピシケク国立大学の氏原名美先生からの祝賀レターが紹介されました。

..... 会報編集部

外務大臣表彰受賞者の功績について（大使館リリースより）

ヴォロビヨワ博士は、キルギスにおいて唯一日本語研究分野で博士号を取得した研究者であり、これまでキルギス共和国日本人材開発センター、キルギス国立総合大学、ピシケク国立大学等の研究機関にて日本語の教鞭をとってきたほか、国内外で数々の論文を発表し、独自の視点から外国人向け漢字教育教材を開発するなど、長年にわたりキルギス共和国における日本語教育の発展及び日本とキルギスの文化交流促進及び深化に一貫して尽力されて来られました。

ガリーナ・ヴォロビヨワ博士の外務大臣表彰

山口祐史（在キルギス日本国大使館2等書記官）

◆私、在キルギス日本大使館で広報文化担当をしております山口と申します。ヴォロビヨワ・ガリーナ博士の外務大臣表彰受賞式を準備させていただきました。この度のガリーナ博士の受賞を心よりお祝い申し上げます。

◆ガリーナ博士の外務大臣表彰は昨年12月に公表されたものですが、大使公邸でのレセプションを実施したいと考えていたため、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着くのを待っていましたが、今年度の外務大臣表彰が公表される予定の七月までに前年度の表彰式を終えなければならないスケジュールから、今回は残念ながら大使館内で小規模な授賞式を行わざるを得ないという判断になりました。

◆しかし、この感染症が収束した際には、日本語教育関係者を対象としたレセプションを実施したいと考えていますので、その時までお待ちいただければと思います。

◆今回の授賞式にイサエフ・ビシケク国立大学学長、シャディハノフ・教育科学副大臣がお越しになってくれましたのは、ガリーナ博士の功績の大きさを踏まえてのことだと思います。また、氏原先生やミヘルチチ先生がくださった祝賀レターからは、ガリーナ博士の誰からも尊敬されるお人柄が伺えました。

◆前田大使のスピーチにあったように、外務大臣表彰は受賞者の活動の終わりにあたってこれまでの功績を称える性質の賞ではなく、これからの活動の刺激にさせていただくものです。ガリーナ博士の日本語研究にける情熱がさらに増すことにより、日・キルギス関係がさらに厚みをもったものとなることを期待しています。



ガリーナ先生、ますますのご活躍をお祈り申し上げます！

キルギス共和国日本語教師会 会員一同より

私たちのガリーナ先生がキルギスでの日本語教育の発展と科学的・文化的交流を通じた日キ両国の友好関係を深める上での先生の多大な貢献に対して日本国から外務大臣表彰されました。

ガリーナ先生は、キルギスにおいて唯一日本語研究分野で博士号を取得した研究者であり、国内外で数々の論文を発表し、独自の視点から外国語としての日本語漢字教育教材を開発するなど、長年にわたりキルギス共和国における日本語教育の発展及び日本とキルギスの文化交流の促進及び深化に一貫して尽力されて来られました。

ガリーナ先生、私たち日本語教師会の会員は同僚として、友人として、先生が日本語教育推進に尽力して下さったことに感謝します。今回の外務大臣表彰を心から祝福するとともに、先生のご健康、活力の尽きることのないようお祈りしています。これからもいつもお元気で私たちに刺激を与えながら、ご活躍くださいますように。

キルギス共和国日本語教師協会会員一同

Поздравляем уважаемую нашу Галину Воробьеву сэнсэй с награждением Почетной грамотой Министра иностранных дел Японии. Почетная грамота была вручена Галине сэнсэй в знак особой признательности за весомый вклад в развитие преподавания японского языка в Кыргызстане и углубление дружественных отношений между двумя странами посредством научного и культурного обмена.

Галина сэнсэй – единственный исследователь в Кыргызстане, получивший докторскую степень в области исследования японского языка. Галина сэнсэй опубликовала множество научных статей и выступала с научными докладами на многочисленных симпозиумах и конференциях в Кыргызстане и за рубежом, а также разработала уникальные методические пособия по изучению иероглифов.

Мы, члены Ассоциации, коллеги и друзья, благодарим Вас, Галина сэнсэй, за Ваш неустанный труд в продвижении преподавания японского языка и искренне поздравляем Вас с заслуженной почетной наградой и желаем крепкого здоровья, неиссякаемой энергии и сил продолжать свою любимую работу и вдохновлять нас своим примером.

С наилучшими пожеланиями,
Члены Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики

謝辞 日本国外務大臣表彰を受賞して

ヴォロビヨフ・ガリーナ、PhD

◆日本外務大臣表彰の受賞は私にとって身に余る光栄です。これは私の個人としての努力だけではなく、キルギスの日本語教育とキルギス日本語教師会の活動の評価だと思えます。また私が上げた成果は多くの人の協力のおかげで可能になりました。



◆感謝の気持ちでいっぱいです。日本の政府、茂木外務大臣、前田大使をはじめ在キルギス日本国大使館の皆さまに心からお礼を申し上げます。それとともに萩原幸子先生をはじめ、私に日本語を教えてくださいました先生方に感謝の気持ちを表したいです。さらに私の研究を支えてくださった国際交流基金日本語国際センター、国立国語研究所、博士号を与えてくださった政策研究大学院大学とサポートをしてくださった他の日本の大学、JSL漢字学習研究会をはじめ私の研究をサポートしてくださっている世界の様々な研究会にお礼を申し上げます。また私の共同研究者である夫のヴォロビヨフ・ヴィクトルによる支援がなければ、研究ができませんでした。心から感謝しています。

◆キルギスの日本語教育は1991年に始まって、今年30周年になります。私は1999年にキルギス日本センターの日本語コースを卒業し、日本語教師になってはじめて授業をしたときまるで背中に翼ができたように感じて、とても幸せでした。学習者の漢字学習の困難を軽減するために研究を始めて、『漢字物語』という漢字教材を作成しました。また、教師用の漢字指導法のハンドブックも作成しました。キルギス日本センター、キルギス国立総合大学、ビシケク国立大学で講師をする機会もいただきました。そして研究の成果を13か国77の国際研究大会などで発表したり、14か国で74本の研究論文を掲載してもらい、2014年には政策研究大学院大学で博士号を取得しました。

◆パンデミックのため外国へ行くのは不可能になりましたが、世界学術コミュニティはCOVID-19に負けず、オンライン式の研究会をたくさん開催するようになり、世界は前より狭くなったように感じています。私はパンデミックの間、日本をはじめアジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリアの国々で開催されたオンライン研究会に60回参加しました。そして今年の3月から6回研究発表をしました。それは日本、ロシア、アメリカ、ブラジル、ウズベキスタンでのオンライン発表でした。

◆現在は、キルギス日本語教師会が発行している研究紀要『キルギス日本語教育研究』と会報の編集委員を務めています。そして教師会が開催する日本語教育セミナーと国際研究大会の企画、運営に参加しています。8月にキルギスの日本語教育開始30周年記念研究大会が実行されます。今後とも研究活動を通して日本語教授法の改善のために頑張りたいと思います。

◆キルギスの日本語教師は頑張っていますが、日本語教育には問題が多いです。例えば日本語教師養成システムの不在、教師の不足、教師の教授法の知識不足、日本語研究を進める環境の不備などです。このような問題を解決するために教師の力だけでは足りません。サポートが必要です。

◆漢字から見ると、「生徒」は「先生」の後ろを歩く人のイメージですが、先生にとって生徒が得た知識を生かして先生を追い越して、様々な分野で成功を収めることは極めて重要です。私が日本語を教えた人の中に日本で勉強してから日本の大学の教授になった教え子、日本で知識を得て、キルギスのイシククリ湖で日本人も高く評価しているホテルを建てて経営している人、現在日本国大使館や日本人材開発センターで働いている人、カナダで翻訳の仕事をしている人、日本でITに関する仕事をしている人などがいます。

◆生徒の成功は先生の成功にもなっています。ですから私の受賞には生徒の貢献も大きいと思います。教えた生徒の中には日本語に無関係の仕事をしている人も多いですが、私は日本語を教えるとともに、日本の文化、歴史、習慣、一年の行事なども紹介したので、みんな日本が大好きになってくれたと自信をもって言えます。

◆私の日本に関する歩みのもとには立派な国を構築した日本国民への尊重、感心の気持ちでした。日本語の知識のおかげで日本と密接な関係になって、自分を両国の間の架け橋のように感じています。日本で一生の友達もできました。もう一度心からお礼を申し上げます。今後とも架け橋の役割を果たしていけるよう努力します。

ガリーナ先生が実証したキルギスの「生涯教育」への展望

昔々、キルギスの首都でのお話。

とある企業の管理職として重責を担っていた 46 歳のキャリア・ウーマンが、新しく日本センターなるものが開設され、キルギスで初めての社会人対象日本語講座が始まることを知り、しばらく思い悩んだ末、一念発起、仕事と勉学の二足の草鞋を履いて未知の言語を一から学ぶことにしました。

4 年の間、一心不乱に学び続け、日本語能力試験一級に合格、日本語教師として働き始めました。50 歳にして迎えた、まさに人生の大転換期でした。

やがてキルギス共和国日本語教師会創立者の一人として、キルギスにおける日本語教育普及活動に取り組み始めます。日本センター主任講師であるとともにキルギス共和国日本語教師会会長として日本語教育に携わる中で、「漢字教育」研究に邁進、いまやキルギスのみならず、日本ほか世界各地の漢字教育研究におけるリーダーの一人となりました。

『漢字物語』作者であるヴォロビヨワ・ガリーナ先生の『日本語事始め』には誰もが驚かされます。



日本センター日本語コース第一期生(1995 年入学)と
萩原幸子先生

ヴォロビヨワ・ガリーナ先生の日本国外務大臣表彰受賞にあたり、ガリーナ先生、そしてガリーナ先生の伴侶であり研究における良き相談役であるヴィクトル・ヴォロビヨフ先生に心よりお祝い申し上げます。

キルギスで初めてガリーナ先生にお会いした時のことは鮮明に覚えています。キルギス共和国日本語教師会に入会した時のことですが、先生は日本から来た新参加者をあたたかく迎えてくださいました。あれからもう 20 年ですね。

キルギス共和国日本語教師会創立者のお一人である先生の受賞は、教師会メンバーの一人として大変うれしく思います。また、ピンケク国立大学の同僚として、先生がキルギスを代表する日本研究者として



ガリーナ先生と筆者
2005年

世界中で活躍されていることを誇りに思っています。そして、何よりも、日本国民として、日本語を母語とするものとして、先生が四半世紀以上の長きにわたり日本と日本語に親しく関わってくださったことに対して、深く感謝の意を表すものです。

ガリーナ先生は、キルギスの生涯教育の可能性を体現してくれています。私たちは、人は何歳からでも学び始めることができること、人生は学びの道程であることを日本語と出会ったガリーナ先生の姿を通じて確認することができます。学びの場はすべての世代に提供されているということもキルギスの成功例として証明しているのです。

先生の歩みは、キルギスの中高年世代の人たちに「もう年だから」などと嘆いたりせず新しく何かを学び始めようとする勇気を与えてくれます。そして、実学中心の大学教育に翻弄され将来の目標が近視眼的になりがちの若者の心に忘れかけた夢を思い出させてくれるはずで、すから先生には、キルギスの人材育成と日本研究の発展のために、これからも尽力していただきたいと切に願っています。



2014年
政策研究大学院大学にて：ヴォロビヨフ博士

親愛なるガリーナ先生、もう一度、おめでとうございます。往来が元通りになり日本あるいはキルギスで再びお目にかかれる日を楽しみにしています。

氏原 名美 拝

2021年キルギス共和国日本語弁論大会審査員講評

- ◆60号でもお伝えしたように、2021年4月4日(日)オンライン「キルギス国内日本語弁論大会」が開催され、初級部門(A方式)及び中上級部門(B方式)合計5機関18名の出場がありました。
- ◆今号では、今回の国内大会でも審査をしてくださったJICAキルギス共和国事務所所長根本直幸様の講評をご紹介します。9月からの新学期から日本語による口頭発表の練習の参考にもさせていただきます。

イントネーションを通じた表現力が向上

根本 直幸 (国際協力機構キルギス共和国事務所 所長)

まずは、2021年のキルギス日本語弁論大会が無事に開催されたことにお慶び申し上げます。

今回、3回目の審査員として参加させていただきましたが、例年のクオリティに負けず劣らず、今回も参加者の皆さんは、全体的に高い精度の日本語を駆使して弁論大会に臨まれたと思います。今回、特に驚いたのは、文章の中での抑揚の付け方(イントネーション)のレベルが大きく上がっていた点です。

私が関わらせていただいた数年間の観察から、毎年参加者の皆さんが苦戦されている課題のひとつが、日本語の独特で難しいイントネーションにあると感じていました。ネイティブの日本人でも、弁論大会のような公式なスピーチできれいなイントネーションで豊かに表現することは簡単ではありません。他方、人前で聴衆に訴えかける、共感を誘う、説得力のあるスピーチを行うためには、イントネーションとそれを含めた高い表現力は不可欠です。

おそらく参加者の皆さんは、日頃から先生たちと一緒に何度も何度も反復練習することで、少しずつ頑張る身に着けていったのではないかと思います。そのような日々の絶え間ない努力の結果が、今回、実を結んだのではないのでしょうか。

今回の弁論大会でも残念ながら1位から順位をつけなければなりませんでしたが、結果に満足した参加者もいれば、悔しい思いをした参加者もおられると思います。

しかし私は、皆さんが取り組まれてきた日々の努力は必ず報われ、素晴らしいコミュニケーション力と表現力を身に付ける結果に繋がると確信しています。ぜひこれからももう一つ先のステージを目指して楽しく日本語を学んでいただくことを願っています。



キルギス共和国日本語教師会ホームページ <http://jikyoushikai-kyrgyz.jimdo.com> 情報



ホーム KAJLTとは? 入会案内・会費 教師会活動 会報・刊行物
紀要『キルギス日本語教育研究』 広報資料 お問い合わせ 関連リンク

「2021年キルギス共和国日本語弁論大会」の入賞者スピーチ原稿をアップしました!

4月4日に「2021年キルギス共和国日本語弁論大会」が行われました。

下記から入賞者のスピーチ原稿をご覧くださいませ。

詳しくは[こちら](#)から。 ※左の「こちら」をクリックしてください。(日本語弁論大会のページにジャンプします)



主催: キルギス共和国日本語教師会
後援: 国際交流基金

キルギスにおける日本語教育開始 30周年記念国際研究大会

10:00-16:00(キルギス時間)
13:00-19:00(日本時間)

言語: 日本語

8/21(土)30周年記念実践報告:

キルギス共和国における日本語教育の歩み

ON-LINE (ZOOM)開催

日本語卒業生
ビデオ出演!

8/22(日) 基調講演: 中川千恵子氏 國學院大學(大学院)兼任講師
テーマ: 「学習者の自律を目指した音声指導・学習」

研究発表・実践報告: 国内外

参加費無料 定員: 200人

申込フォーム <https://clck.ru/WBK7L> or QRコードにて
締め切り2021年8月15日
登録した皆様にはzoom IDを2021年8月20日に送付
問い合わせ: 実行委員会
E-mail: kyrgyzkenkyuutaikai@gmail.com



異文化衝突ケースを用いて、異文化理解能力を伸ばそう！

カイロ大学 客員講師
森田 誠亮

■2021年6月10日（木）に、キルギス共和国日本語教師会主催勉強会で「異文化衝突ケースを用いて、異文化理解能力を高めよう！」というテーマでお話をさせていただきました。それについて、報告をさせていただきます。

■勉強会の流れとしては、報告者がカイロ大学（エジプト）での「異文化衝突ケースを用いた授業の実践」についてお話しした後に、質疑応答の時間を設け、実際の授業で使用した「時間厳守と家族の問題」に関する異文化衝突ケースについてグループに分かれて話してもらってから、ほかに今までどのような異文化体験をしたことがあるか話し合ってもらい、最後に皆でグループの中で出た意見などを共有し、もう一度質疑応答の時間を取るという流れでした。実際にグループで話し合っていた後のほうが、やはり多くのご意見やご質問をいただくことができました。

■グループでの話し合いは、30分という限られた時間でし、初対面の方もいらっしゃったので、「時間が足りない。難しい。」と感じた方も少なくなかったのではないかと思います。それでも、グループの話し合いの様子を見てみると、1人1人の参加者が一生懸命取り組んでくださっていて、話し合いが進むにつれて、笑顔も増えていたのが印象的でした。

■まとめの共有の時間には、「時間厳守と家族の問題」に関して、「キルギスで日本人の方と仕事をする機会のない人にとっては、このケースのエジプト人の方と同じように仕事の締め切りよりも家族を優先する人が多いと思う」という意見が出て、「エジプトと同じだ」と感じました。特に盛り上がったのは、先生方が実際に経験された異文化体験のお話でした。

- 日本で電車に乗っているとき、お年寄りの方に席を譲ったら叱られてしまった。
- キルギスの日本語コースへのパスカードを忘れてしまった時、日本人の上司に入れてもらえなかった。
- 日本国内のどこかへ旅行に行くと、日本人に必ず『その地方の名物は食べましたか』と聞かれた。日本人は食べ物のお話にこだわる人が多いと思う。
- 水族館に行った時に、日本人の方が「おいしそう」と言ったのを聞いて笑ってしまったがキルギス人も羊を見たときには、「おいしそう」と考える人が多い思い出した。

（日本人の中にもこのような反応をする人がいることにも驚きましたが・・・（森田）

などなど、もちろん「異文化衝突ケース」というより「お話のおもしろい小ネタ」という印象のものもありますが、興味深いものばかりでした。報告者が普段しているのは、そのような多くの方の異文化体験の中から、特に様々な意見が出そうなもの・誤解や問題が起きてしまいそうなものを選んで、語彙や文法のレベルを学生に合わせ、文章化することです。この作業は、もちろんそんなに簡単ではありませんが、これだけすばらしい会報や論文集などを普段から編集されているキルギス共和国日本語教師会の皆様が力を合わせれば、それほど難しいことではないのではないかと思います。

■言うまでもないことですが、同じ国でも出身地などによって違う習慣なども多く存在しますし、同じ中央アジアの国々でも大きく違う文化が存在するでしょう。お話しさせていただいた通り、異文化理解能力を高め、視野を広げることによって人生を豊かにすることは、日本語教育に関わらず、全ての外国語学習の大きな意義の一つであると思いますので、時には日本でロシア語を学んでいる日本人と、ロシア語で意見交換をしてみてもいいかもしれません。そして、いつかエジプトの日本語学習者とキルギス共和国をはじめとした中央アジアの国々、またはロシアの日本語学習者が共通言語である日本語を使って、異文化衝突ケースについて話し合いながら、解決策を見出していくような交流が実現することを願っております。コロナ禍でオンライン開催であるからこそ、参加させていただいたセミナーでございますが、いつか実際にキルギスに行って、たくさんの異文化体験をしたいと思っております。

■最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきまして、お声掛けくださったガリーナ先生をはじめ、教師会の皆様には、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

ご質問などありましたら、mitsuavi1984@gmail.comまでお気軽にご連絡ください。



『キルギスの日本研究』 第 1 回研究会 実施報告

「第 1 回研究会」 実行委員長

ジュヌシャリエワ・アセーリ

(ビシケク国立大学日本語日本文学研究講座 主任)

■2021 年 6 月 10 日、キルギス共和国日本語教師会主催（国際交流基金助成事業『キルギスの日本研究』の一部）「第 1 回研究会」では、カイロ大学教授の森田誠亮先生に「異文化衝突ケースを用いて異文化理解能力を伸ばそう！」というテーマでご講演をいただいた。

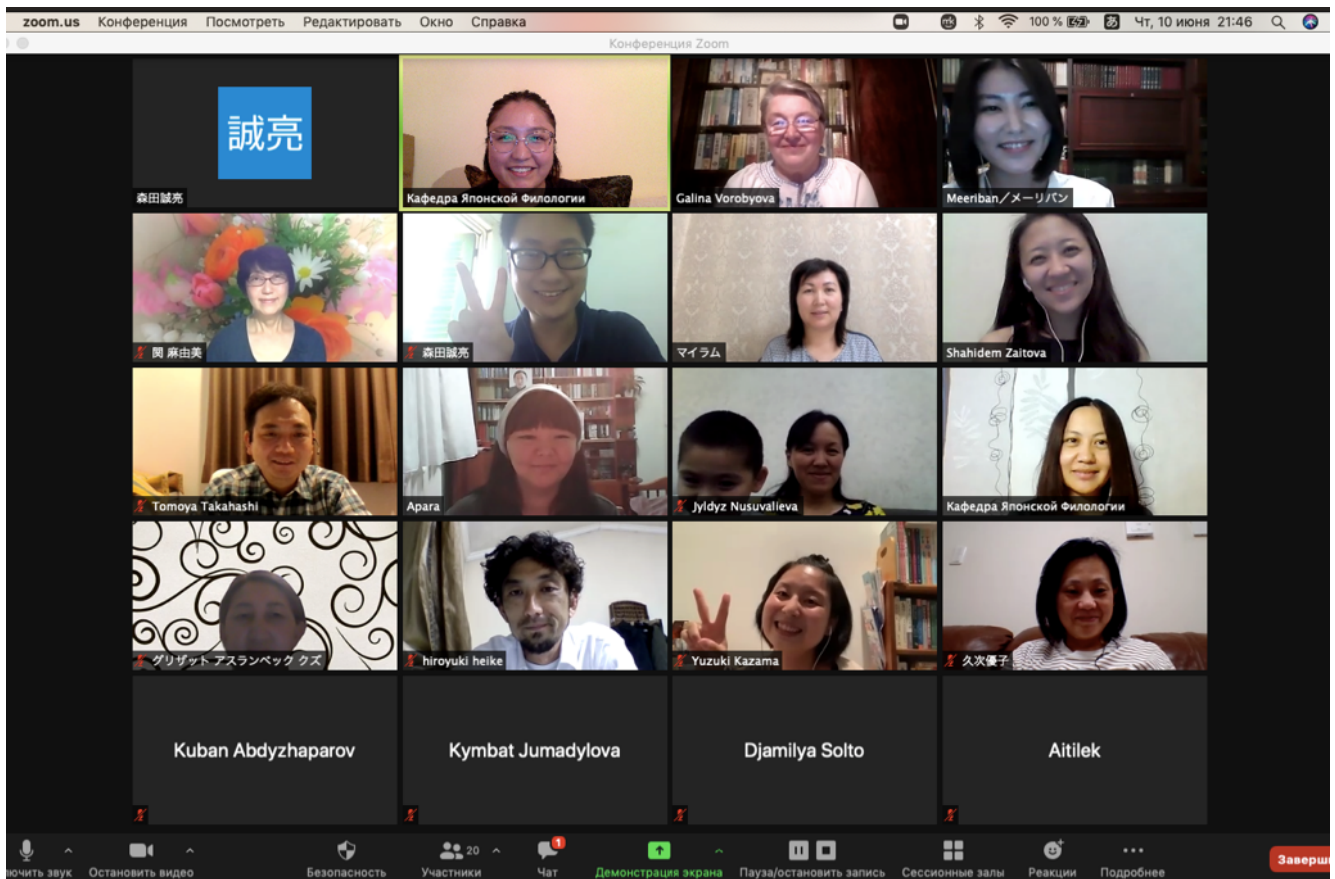
■今回の研究会は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインの形で行い、キルギス、日本、ロシア、ウズベキスタンの日本語教師のほか、学生、大学院生など日本語学習者が参加した。

■森田先生は筆者自身の研究分野である異文化コミュニケーション論を専門とされているので、研究会当日はもちろん、企画の段階から大変興味深く参加させていただいた。森田先生のお話は、とても具体的に分かりやすく、すぐに実践してみたいくなるような内容ばかりだった。

■キルギスの日本語教師を対象として素晴らしい講演をしてくださり、森田先生には深く感謝申し上げたい。キルギスの日本語教師の中には、大学で異文化コミュニケーション論を学び、それを専門分野として研究している者は極めて少数である。

■今回の研究会で森田先生のお話を聞いたことで参加者は約 20 名だったが、みな大きな刺激を受けたと思う。一人でも二人でも異文化コミュニケーション論に興味を持って自身の研究を深めるきっかけにしてくれたら、また、今回得た知識を日頃の授業で実践してみたいという気持ちになってくれれば研究会実行委員として嬉しい限りである。

■森田先生とは、本年 8 月 21 日と 22 日の両日実施予定のキルギス共和国日本語教師会主催「キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念国際研究大会」で再びお会いできるのを楽しみにしている。



2021年キルギス共和国日本語弁論大会に参加して

① 中上級部門2位 マラトワ・アイビィケー ビシケク国立大学東洋国際関係学部3年

4月4日、私は幸運なことに、キルギス共和国日本語弁論大会に参加することができました。この大会はオンライン形式で行われたにもかかわらず、優れたオーガナイズのおかげで非常にうまくいきました。すべてのビデオスピーチが途切れることなく上映され、プレゼンテーションも面白くて分かりやすく、スピーチや表彰式の式次第もよく考えられていました。

他の参加者のスピーチに興味深く耳を傾けることもできました。どのスピーチも興味深くユニークな内容でした。



私はこのような大会に参加するのは初めてだったので、とても緊張しました。でも、大会の雰囲気はとても和やかで優しく感じられました。ですから、私はリラックスしてイベントを楽しむことができました。この大会に参加したことで、私は素晴らしい、かけがえのない経験と楽しい思い出を得ることができ、日本語学習へのモチベーションがさらに高まりました。

準備してくださった先生方、審査員のみなさま、スポンサーの方々、参加した学生の皆さん、そして、パンデミックという大変な状況にもかかわらず、この素晴らしいイベントを実現してくださったすべての方々へ心より感謝したいと思います。

② 入門初級部門2位 マムィートワ・アリヤー ビシケク国立大学東洋国際関係学部1年

2021年4月4日に開催された「日本語スピーチコンテスト」は、私の記憶にいつまでも残ると思います。

最初は出場するつもりはありませんでした。それは全くの偶然であり、もちろんナズグーリ先生のサポートと指導のおかげでもあります。ルールに従って発表しなければならないスピーチの原稿を書き上げたのはギリギリでした。入賞できるなんて思いもしませんでした。1年生の私にとって、弁論大会に出場するのは初めての経験でした。日本語のテキストを暗記するのは、とても面白い体験でした。ビデオ撮影の日、私はとても緊張していて、自分を見失っていました。私は最もドレスリーなブラウスを着て、ビデオの撮影を始めました。興奮してことばが出てこなくなったりして、何度も最初から撮影し直しました。やっと、一番うまくいった動画をナズグーリ先生に送りました。

そして、4月4日を楽しみに待っていました。当日、私はこのイベントに参加できたことがいかに素晴らしいかを考えていました。オンラインの大会で画面には見慣れない顔がたくさん出てきました。イベントがすべて日本語で行われるとは思っていませんでした。



主催者と審査員の先生たちが日本語で話すのを聞くのは興味深いものでした。先輩たちの弁論パフォーマンスも見ることができました。出場者は全員興奮している様子が伝わってきましたが、質疑応答ではみんな堂々とスピーチ内容に関する質問に答えていました。そして、今回見聞きしたすべてが1年後、2年後の自分のためになるのだと確信できました。

上級グループのスピーチが終わると、初級グループの審査結果の発表が始まりました。3位入賞者が発表され、次は2位です。2位の受賞者が発表されましたが、私は名前が聞こえませんでした。でも私のスピーチ・テーマが発表され、自分のことだとわかり、嬉しさのあまり涙が出そうになりました。入賞者として自分の顔が大勢の人が見ている大画面に映し出されることは、圧倒的な喜びでした。

この大会に参加して、自分の力を知ることができて本当に良かったと思います。主催者の皆様、本当にありがとうございました。

2021年キルギス共和国日本語弁論大会に参加して

③ アルマーシェワ・マリカ（ビシケク国立大学東洋国際関係学部2年）

国内日本語弁論大会の原稿を書いている時、私は上手にスピーチしようとか、できれば入賞したいなどということは考えていませんでした。ただ、スピーチを聞いてくれる人ひとり一人にあたたかい思い出のいっぱいあるのんびりした自分の子供時代を思い出してもらいたいという気持ちで原稿を書いていた。

大会には、日本語のレベルが高い学生が参加していました。彼ら上級者のスピーチ・パフォーマンスを見たり、質疑応答でどう答えるか聞いたりするのはとても興味深いものでした。

私は自分に対する質問だけでなく、他の人への質問にも集中して耳を傾けました。自分が日本語の質問を理解できているかどうかを確認したかったです。大会は面白く、スムーズに進みました。私に対する質問は難しいものではありませんでした。スピーチの内容とマッチしていました。

今回はコロナウィルスの感染予防のためオンライン開催でしたが、来年はぜひ今まで通りの会場での伝統的な形で開催してもらい、弁論大会本来の雰囲気浸ってみたいと思います。大会の主催者とスポンサーの皆様、本当にありがとうございました。



④ ベイセムビノフ・スレイメン（ビシケク国立大学東洋国際関係学部2年）

今年のキルギス共和国日本語弁論大会は、オンライン方式でしたが、それにもかかわらず参加者はとても楽しいひとときを過ごすことができたのではないのでしょうか。出場者にとっても、もしかして、スピーチを聞いていた人たちにとっても、最もエキサイティングだったのは、スピーチに続く質疑応答だったと思います。でも、大会の和やかで楽しい雰囲気のおかげで、すべてがうまくいきました。僕にとっては出場した人全員のスピーチが参考になり、興味深いことをたくさん学ぶことができました。

日本語弁論大会に出場したのは今回が初めてでしたが、この経験はとても刺激的で、あたらしい世界が広がった感じがします。

大会について情報を集め、次回に向けた準備を始めようと思います。ぜひ上位入賞を目指したいです。嬉しいことに大会のおかげで新しい友人を得ました。正直言って、多くの人が聞いている中、スピーチをして、日本語の質問に答えるときは恐怖でした。僕は緊張して最初の質問に答えられませんでした。でも、今回の失敗でやる気を失ったりはしません。語句や文の構成や文法の復習からやり直すことにしました。実際に挑戦しなければ、目標にはたどり着けません。だから、自分の長所と短所を知った上で、次の弁論大会では、徹底的に準備します。

キルギスの日本語教育の発展に大きく貢献している主催者に、心から感謝したいと思います。

寄稿『第24回中央アジア日本語弁論大会』

ウズベキスタン日本語教師会
中央アジア日本語弁論大会実行委員
ウマロヴァ・ムノジャット

◆2021年5月30日にウズベキスタン日本語教師会主催で「第24回中央アジア日本語弁論大会」が行われました。今年も続いているパンデミックのため、5カ国中の3カ国が国内大会をオンライン形式で行い、中央アジア日本語弁論大会もウイルスの感染拡大を防ぐため、残念ながらオンライン形式で開催されました。国内大会での経験がありましたが、短い時間でオンラインによる国際レベルの大会を準備するのは簡単ではありませんでした。各国の経験・技術・知識の共有があってこそスムーズに終わることができたと思います、皆さんに感謝しています。



第24回中央アジア
日本語弁論大会

開催日時: 2021年5月30日(日)
9:00開会(カザフ、キルギス時間
10:00、日本時間18:00開会)

主催: ウズベキスタン日本語教師会、
ウズベキスタン共和国日本国大使館

後援: 国際交流基金、
名古屋大学ウズベキスタン事務所、
ウズベキスタン日本センター

**YouTube
で生中継** <https://youtu.be/Cyejz5qG-CQ>

連絡先:
第24回中央アジア日本語弁論大会実行委員会
ウマロヴァ・ムノジャット(munozhat2005@yahoo.co.jp)
今村栄一(imamura.uz@gmail.com)

◆今回の「第24回中央アジア日本語弁論大会」に当たっては、5カ国(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン)の代表が定期的に ZOOM 会議を行いながら大会実施計画を進めてきました。弁論大会経験の長い姉妹国のカザフスタンとキルギスとともに日本人日本語教師の3人の質問員グループを作り、短い期間で原稿に対する質問を作成してもらえました。各国の代表者が出場者のエントリーシートやスピーチ動画を期限通りに提出するなど力を尽くしてくださいました。大会当日は審査の間に各国からのアトラクション動画もあり、とても興味深い有意義な文化紹介の時間になりました。

◆大会当日、リアルタイムで出場者(20名)や質問員(3名)、来賓や主催者は ZOOM で繋がりました。出場者の発表は事前に用意した動画が順番に流され、発表が終わったら質問員からリアルタイムで質問が行われました。大会は、リアルタイムで YouTube で同時中継されました。大会では、10分の休憩が一回、審査時間を利用したアトラクションタイムがありました。最後に、入賞者発表(表彰式)が行われ、今年の中央アジア大会が終わりました。

◆大会の一週間後、各国実行委員反省会と学生交流会が企画され、どちらも ZOOM を使って行われました。反省会では、初めてのオンライン大会だったのに大きな問題がなく、進行どおりにスムーズに進められたと評価してもらいましたが、次回から改善すべき点もいくつか指摘されました。たとえば、原稿のフォーマットやビデオ撮影に際したルールを定めること、どうしても審査にかなり時間がかかるので、審査時間を短くする工夫はないか考えていかなければならない、などです。また、発表動画のフォーマットも事前に決めたほうがよいなど、技術的なコメントもありました。出場した学生の間で行われた交流会では、簡単な自己紹介、大会の感想と簡単なゲームのほか意見交換もあり学生たちは有意義な交流ができたと思います。



【当日の実行委員会チーム】

◆ウズベキスタンが開催担当国となった「第24回中央アジア弁論大会」実施にあたって、中央アジア各国の教師会の皆さんはじめ、ご協力くださった方々に深くお礼を申し上げます。今後とも活発な交流ができるよう祈っております。



中央アジア日本語弁論大会に参加する意義

第24回中央アジア日本語弁論大会審査員
ソルトバエワ・ジャミーリヤ
(ビシケク国立大学)

◆2021年5月30日「第24回中央アジア日本語弁論大会」がオンライン形式で実施されました。ウズベキスタン日本語教師会および在ウズベキスタン共和国日本国大使館の共催によるもので、国際交流基金、名古屋大学ウズベキスタン事務所、ウズベキスタン日本センターの支援をいただきました。



◆私は、光栄なことに、初めての経験ですが、中央アジア弁論大会の審査員の大任を務めさせていただきました。今回の大会について、少し印象を述べたいと思います。本大会には、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンからの代表20名が参加し、それぞれが素晴らしいスピーチを披露してくれました。

=====

◆大会結果は以下の通りです。

- | | | |
|----|------------------|----------------------|
| 1位 | トレウムラット・アザマツ | 「力を与える日本語」(カザフスタン) |
| 2位 | アハドヴァ・ラジザボヌ | 「女性への教育」(ウズベキスタン) |
| 3位 | ムサエヴァ・ヤスミナ | 「自分だけの道」(カザフスタン) |
| 4位 | イマンバエフ・モヒル | 「緊張はいつもそばに」(ウズベキスタン) |
| 5位 | アクラムジョノワ・ディルヨラホン | 「頑張って行けば」(ウズベキスタン) |
| 6位 | オラエフ・ビャグル | 「父が与えた自信」(トルクメニスタン) |

◆上位6位の他特別賞が設けられ、二人が受賞しました。在ウズベキスタン共和国日本国大使館賞がマラトワ・アイビケー「善を信じるためには」(キルギス)、そして、ウズベキスタン日本語教師会賞がサディリスラモワ・アンゲリーナ「親しい友達」(タジキスタン)でした。

=====

◆今回大会は、発表者は事前に弁論を録画し、その弁論ビデオをZOOMで流した後、質疑応答が続き、出場者はZOOMを通して質問に答える方式でした。スピーチの内容、表現力、質疑応答、この三つを対象に審査するのですが、出場者20名は全員甲乙つけがたく、審査員は初めての経験だけにかかなりの緊張を強いられました。

◆オンライン形式がパンデミックの状況下すでに珍しいものではなくなりました。今回も、中央アジア各国を代表する出場者がウェブ会議システムのもと一堂に介し、大きな大会を滞りなく終えることができ良かったと思います。そうはいつても、弁論大会はやはり発表者が多くの人を前に実際に演壇に立ち、会場の聴衆に直に自分の思いを聞いてもらうという、一層緊張感のある本来の弁論大会が一番望ましいのはいうまでもありません。早くパンデミックが終息し、また元通りの弁論大会に戻れることを願っています。

◆1位から6位のスピーチは、テーマはもちろんパフォーマンスがいずれも素晴らしく、自由なおしゃべりとコミュニケーションにも優れていると感じました。今回キルギス代表者は特別賞を受賞しましたが、少し残念な気持ちです。でも、今回、国際大会に参加したことによってキルギスの代表者たちは、中央アジアの優秀な日本語学習者たちのスピーチに耳を傾けることができました。ライバルたちの日本語レベルに驚き、オンラインとは言え国際イベントの雰囲気感動して、日本語への興味も日本語学習の意欲も高まったのであれば、一人一人にとって何よりの成果です。中央アジア日本語弁論大会の意義もそこにあると思います。

◆キルギスの学生のみなさん、これからもっと研鑽を積んで、素晴らしいスピーチをたくさん発表してください。

◆7月4日、試験実施会場の提供などアラバエフ名称キルギス国立大学の協力のもと『2021年日本語能力試験第1回』が実施されました。

◆申込段階で196名の受験申請があったものの、コロナ禍で欠席者がいつもより増えるのではないかと心配されましたが、蓋を開けてみると、実際の受験者は156名で欠席者は40名にとどまりました。

レベル	申請者	受験者	欠席者
N1	8人	7人	1人
N2	23人	16人	7人
N3	55人	46人	9人
N4	45人	37人	8人
N5	65人	50人	15人
合計	196人	156人	40人

◆今回受験を見送った人もいるかもしれません。12月に実施される『2021年日本語能力試験第2回』には是非多くの学習者に挑戦して欲しいと思います。

日本語能力試験

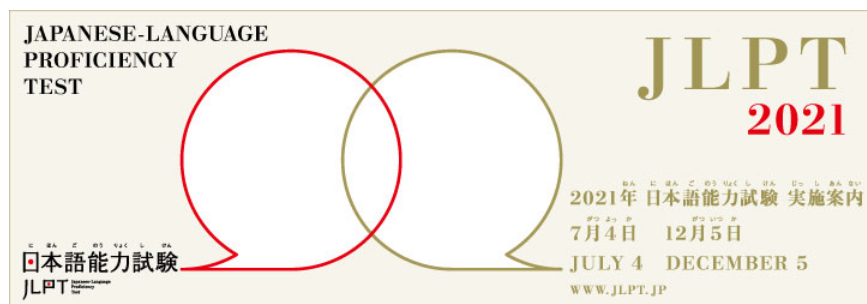
2021年第2回(12月5日実施)

会場(予定):

バラサグン名称キルギス国立総合大学

受験申込: 8月20日以降受付開始

詳細は8月上旬にお知らせします



キルギス共和国日本語教師会会報 第61号 (2021年7月31日発行)

編集: キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 61 от 31.07.2021 г.